

## JENESYS2018 ASEAN 招へいプログラム第 17 陣の記録 平和構築交流 対象国：インドネシア

### 1. プログラム概要

対日理解促進交流プログラム「JENESYS2018」の一環として、インドネシアより高校生、大学生、大学院生、団体関係者 27 名が 2018 年 12 月 11 日～12 月 18 日の日程で来日し、「平和構築交流」をテーマとしたプログラムに参加しました。

一行は、都内での日本理解講義を聴講後、2 グループに分かれ、グループ A (国立イスラム大学所属 9 名) は栃木県、グループ B (インドネシアの二大イスラム社会団体：ナフダトゥール・ウラマー (NU) 及びムハマディア所属の高校生、大学生及び団体関係者 18 名) は宮城県を訪問し、地方自治体への表敬、放送局、大学を訪問し、地域住民及び企業関係者との交流やテーマに関する意見交換を行いました。また、歴史的建造物の視察、文化体験等を通じて、日本の魅力に直接触れる機会を持ちました。また、日本人との交流を通して日本についての理解を深め、各々の関心事項や体験、日本の魅力について SNS を通じて対外発信を行いました。帰国前の報告会では、訪日経験を活かした帰国後のアクション・プラン (活動計画) について発表しました。

【参加国・人数】 インドネシア 27 名

【訪問地】 東京都、栃木県 (グループ A : 9 名) 宮城県 (グループ B : 18 名)

### 2. 日程 表作成

	グループ A (国立イスラム大学)	グループ B (NU、ムハマディア)
12 月 11 日(月)	来日、【オリエンテーション】	
12 月 12 日(火)	【日本理解講義の聴講】 講師：早稲田大学大学院アジア太平洋研究科准教授 見市 建 氏 【テーマ関連の視察】モスク (マスジッド インドネシア) 【文化視察】江戸東京博物館	
12 月 13 日(水)	東京都から栃木県へ移動 【表敬訪問・地域概要講義の聴講】栃木県 【企業視察】とちぎテレビ	東京都から宮城県へ移動 【地域概要講義の聴講】 仙台観光国際協会 【伝統文化体験】こけし絵付け
12 月 14 日(木)	【文化視察】日光東照宮、輪王寺、二荒山神社、中禅寺湖畔周辺 【ホームステイ】栃木県日光市	【テーマ関連講義の聴講】 東北大学 文学部文学研究科 教授 木村 敏明 氏 【ホームステイ】宮城県加美町
12 月 15 日(金)	【ホームステイ】 【学校交流】宇都宮大学	【ホームステイ】

12月16日(土)	【ホームステイ】【地域住民・関係者との歓送会】【ワークショップ(報告会準備)】	【文化体験】和太鼓、【地域住民・関係者との歓送会】【ワークショップ(報告会準備)】
12月17日(日)	栃木県から東京都へ移動	宮城県から東京都へ移動
	【文化視察】浅草寺、【成果報告会】	
12月18日(月)	帰国	

### 3. プログラム記録写真

グループA・B共通(訪問地:東京都)

	
12月11日【オリエンテーション】	12月12日【日本理解講義の聴講】
	
12月12日【テーマ関連の視察】モスク(マスジッド インドネシア)	12月12日【文化視察】江戸東京博物館
	
12月17日【成果報告会】	

グループA（訪問地：栃木県）

	
<p>12月13日【表敬訪問】栃木県庁</p>	<p>12月13日【企業視察】とちぎテレビ</p>
	
<p>12月14日【文化視察】日光東照宮</p>	<p>12月14日【ホームステイ】</p>
	
<p>12月15日【学校交流】宇都宮大学</p>	

グループB（訪問地：宮城県）

	
<p>12月13日【地域概要の聴講】 仙台観光国際協会</p>	<p>12月13日【文化体験】こけし絵付け</p>

	
12月14日【テーマ関連講義の聴講】	12月15日【ホームステイ】
	
12月16日【文化体験】和太鼓	12月16日【地域住民・関係者との歓送会】

#### 4. 参加者の感想（抜粋）

##### インドネシア大学生（国立イスラム大学）

強く印象に残ったことはたくさんありますが、なかでも宇都宮大学での交流プログラムに参加した日本の大学生の皆さんのことが心に残っています。彼らは皆、とても気さくで、私たちと彼らのお互いの心の距離があつという間に縮まりました。彼らは私たちよりも積極的で、躊躇することなく話しかけ、一緒に写真を撮ったり連絡先を交換したりしてくれたので、私にとってとても有意義な時間を過ごせました。大学には、インドネシア人技能実習生がおり、私の日本への留学の動機づけにもなりました。ホームステイでお世話になったご家族は、親しみやすく、工芸品の作り方を教えていただきました。また、大変高価な着物の着付け体験をさせてくださり、とても嬉しい体験ができました。

##### インドネシア大学生（国立イスラム大学）

学校交流は宇都宮大学にて行われました。そこでの交流に参加した日本の大学生の皆さんはどなたも親しみやすく、おおらかであり、アジアの未来をどのように築くかということ念頭に置き、それぞれの文化や社会について意見を交換し、相互理解を図りました。栃木県は地域資源をうまく活用し、バランスのとれた発展を遂げているものと感じられました。ホームステイでは日本の文化、歴史について多くを学べた他、ホストファミリーが日光市の観光スポットへと連れて行ってくださいました。ホストファミリーの皆さんは気遣いが細やかで優しく、海外ではなく、あたたかも自宅にいるような心地よさが感じられました。

##### インドネシア大学生（国立イスラム大学）

早稲田大学の見市建准教授の講義を通して日本の政治、宗教、人口動態について理解を深められた他、日本のイスラム教徒や戦後の国造りの理念についても深く学ぶことができました。宇都宮大学では積極的な参加姿勢が見られた日本の大学生と、30年先を見据えたアジアの将来について、交流、許容度、教育と充実化について等、何をなすべき

かについて、活発な意見交換を行いました。栃木では地域資源を最大限に活用することに重きが置かれた産業振興が図られていて、主要製品のなかには輸出されているものもあるほどでした。ホームステイでは家族の一員として迎え入れられ、日本人の日常生活や文化、将来の展望について知識を深められました。日本ではどこもかしこも規律が保持されていて、プロ意識が高く、人々は親しみやすく鷹揚に感じられました。

#### インドネシア大学生（NU、ムハマディア）

日本に着いた初日、多くの日本人が日本語しか話せないということに驚きました。大学での講義では、宗教人類学に関する新しい知識を得られました。神道や仏教がいかに急速に日本で発展を遂げたのかについて学ぶことができました。そして日本の大学独自の清潔なキャンパスをこの目で見ることができました。ホームステイでは日本文化をたくさん経験することができました。日本食の調理方法や食べる時のマナー、そして外では雪かきのお手伝いをして楽しい時間を過ごしました。また、日本のお父さんに温泉に連れて行ってもらい、裸になって温かいお風呂に入るといふ、生まれて初めての経験をしました。仙台では、仙台市の観光分野における取り組みについて講義を受けました。日本の観光について学ぶとともに、東日本大震災の後に観光分野が早くに復興を遂げたことを知ることができました。これは、日本の中央政府、地方自治体とコミュニティの皆さんが共通の意志を持って連携を図ることができたからだと思います。

#### インドネシア団体（NU、ムハマディア）

私は日本人の生活様式が大変印象に残りました。仕事への姿勢が素早くそして的確でした。日本人は時間を最大限に有効活用しています。また、日本の方々は今後への備えに関してとても真剣に考えながら生活していることを知りました。すでに高齢の方でも、趣味や得意なことを活かして何らかの仕事をしていました。大学や地域団体での講義では、日本人がいかに物事の本質に対して関心を払っているのかについて学ぶことができました。時間を効率的に使うこと以外にも、直面する問題や課題に対して最善を尽くそうとしていました。大学やそれ以外の集まりの場でも、責任や規律順守に関する印象的な出来事がありました。私たちに対して「時間を守ってください」と呼びかけるだけでなく、私たちが使用した教室の机や椅子の位置を元通りに整頓していました。ですから、使い終わった後の教室はとてもきれいになっていました。ホームステイでは日本人の親切さ、家の決まり事（整理整頓）を守る姿勢などがとても印象に残り、今後は自分でもその点について生活の中で実践していきたいと思っています。

#### インドネシア高校生（NU、ムハマディア）

宗教に関する講義では、日本人特有の宗教や信仰に関する特徴について学ぶことができました。日本人の人口が1億人に対して信仰する宗教を尋ねたところ、合計すると統計上は1億9千万人となったとのことで、日本人の多くは、2つの宗教に属していることが分かりました。また、在日インドネシアムスリム協会(KMII)の方と会ってお話を聞く機会がありました。日本に住んでいて一番大変なことは、やはりハラルの食材を手に入れることが難しいことや、勤務中の礼拝などを挙げていました。そして日本では英語が通じない場合も多い、ということも知りました。また、ホームステイに参加して、日本人の生活について知ることができました。このように寒い時期でも、日本人は変わらずに生活しています。日本の食事マナーについて、私たちが食事前に「いただきます」

食事が終わり「ごちそうさまです」と言った時、ホストファミリーはとても嬉しそうにしてくれました。日本人と接する上では、食事のマナーはとても意味のあることだと感じました。そして、初めて布団を敷いて自分の寝る場所を整える、という経験をしました。それから、ホームステイ中にも、時間を守って行動することが求められました。時間を守らない学生がいると、ホストファミリーはとても心配してくれました。

## 5. 受入れ側の感想（抜粋）

### ◆ ホストファミリー（栃木県）

インドネシアの学生がとても快活で元気があること、また、英語力がとてもあることに感心しました。オープンマインドで前向きであり、これからの彼らの活発な活動が予想され、将来が楽しみです。SNSもその認識の深さは、国境を越えており、今後、アジアが1つになっていくことが予期されます。インドネシアの皆さんが音楽が大好きであったことも、好感が持てました。独りぼっちは寂しい、家族は多いほうが良いと言っていたことが印象深く思いました。

### ◆ ホストファミリー（栃木県）

今までほとんど知らなかった国、インドネシアの学生をホストすることにより、同国をすごく身近に感じる事が出来ました。どの国の若者もみな同じなのだと思えました。ステンドグラスの体験を「楽しい!」「すてき」と、喜んでくれました。和服の体験をしたいというので、気軽に「OK」と返答したのですが、ヒジャブをしたままで果たしてよいものか・・・と躊躇していると、「そのまま大丈夫!」とすごく喜んでくれました。また、我が家の料理づくりも積極的に手伝ってくれました。

### ◆ ホストファミリー（宮城県）

スマホとジェスチャー、簡単な英語で、とても楽しいひと時を過ごさせていただきました。日本とインドネシアの違いを、たくさん発見できました。少し日本語を話せる方もいて、助かりました。

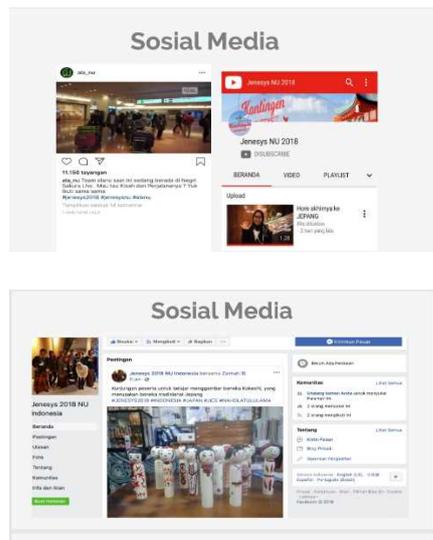
### ◆ ホストファミリー（宮城県）

言葉の問題もなく、交流を深められました。インドネシアの方は日本の食事にもだいぶ慣れたようでした。雪だるまを作ったり、りんごの皮をむいたり、一緒に楽しみました。



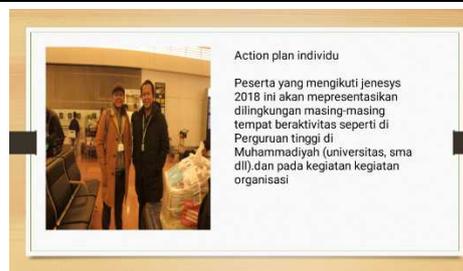
## 7. 報告会での帰国後のアクション・プラン発表

【グループ A(国立イスラム大学)】アクション・プランのプロジェクト名は、「日本で得られた知見の発信」です。日本で得られた全ての学びを自国の人々に紹介し、良い影響を与えたいと思います。日本の事情、日本についての情報の発信は既に行っていますが、2019年より本格化させていきたいと考えています。具体的には、地方ごとに各自が所属する学校や大学の構内において、男子大学生、女子大学生、地域の住民に対しても、広域で発信を行います。また、各大学の構内において、男子大学生と女子大学生が参加できる、日本について討論及び研究の場を設けます。また、多様なソーシャルメディアを利用し、日本に関する情報を発信していきます。



### 【グループ B (NU)】

所属団体である NU の JENESYS2018 に参加したメンバーと NU Channel のチームから一般に向けて、日本で参加したプログラム概要と体験を紹介するとともに、日本に関する情報を、NU のテレビ番組と SNS を通じて発信します。



### 【グループ B (ムハマディア)】

- ・個人の活動として、JENESYS2018 プログラム参加者は所属組織であるムハマディアの大学や高校といった各々の所属先で、プレゼンテーションを行います。
- ・グループの活動として、セミナーや本を出版し、ジャカルタ、スラバヤ、マカッサル、メダン、クドゥス、バンジャルマシンなどの都市で広報活動を行います。

